

1. 評価結果概要表

作成日 平成22年1月28日

【評価実施概要】

事業所番号	0970201232		
法人名	医療法人孝栄会		
事業所名	陽だまり		
所在地	栃木県足利市島田町754-1 (電話) 0284-70-0131		
評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成21年12月11日	評価確定日	平成22年1月28日

【情報提供票より】(平成21年11月21日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成17年4月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	12 人	常勤11人 (うち兼務3人), 非常勤1人, 常勤換算6.2人	

(2) 建物概要

建物構造	木造 1階建ての1階部分
------	-----------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	28,500 円	その他の経費(月額)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理美容代-1,950円/回</li> <li>・おむつ代-30円・150円/枚</li> <li>・水道光熱費-500円/日</li> <li>・日常生活品費-370円/日</li> <li>・教養娯楽費-100円/日</li> </ul>
敷金	無		
保証金の有無(入居一時金含む)	無	有りの場合償却の有無	—
食材料費	朝食	400 円	昼食 400 円
	夕食	400 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(平成21年11月21日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	3 名	要介護2	1 名		
要介護3	4 名	要介護4	1 名		
要介護5	名		要支援2	名	
年齢	平均 85 歳	最低	79 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	今井病院、足利中央病院、柳田医院、増田医院、みくりや整形外科、うるしばら歯科
---------	--

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

<p>当ホームは、母体である医療法人の職員達の思いから平成17年4月に開設され、名称も職員の案から決められる等、職員の思いが詰まったホームである。地元自治会等の理解・協力もあり、地域に溶け込んだグループホームとなっている。母体法人の応援体制のもと、「その人らしく」「いきいきと」を理念に持ち、コミュニケーションを大切にし、入居者の状態変化を見逃さないよう職員一人ひとりが日々向き合い「今の」その人らしい生活を支えている。食についても、全員が楽しみながら食べられるよう配慮をしている。自治会の高齢者「友々サロン」や地域の清掃活動等の行事への参加を通じて、自治会や近隣の人と積極的な交流を図り地域の一員としての生活を支援しているホームである。</p>
---

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	<p>外部評価の結果は運営推進会議に報告し説明をした他、職員ミーティング等でも話し合い、細かい改善に取り組む等、日々の業務に活かしている。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回の自己評価は、全職員が分担して互いの意見を出し合いながら原案を作り、さらに職員同士で話し合いを行い、最終的に管理者がまとめた。</p>
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	<p>運営推進会議は入居者、家族、自治会長、民生委員、市職員等の参加により、2ヶ月に1回開催している。会議内容は、ホームの活動状況や外部評価結果等の報告の他、高齢者の食事、認知症についての理解、防災関係、感染症対策等について話し合いが行われている。また、会議は自治会からの情報提供の場にもなっている他、地域の友々サロン、自治会、老人会の方々と地域交流が深まる機会にもなっている。</p>
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	<p>玄関には意見箱を設置し、苦情相談等の受付方法も掲示しているが、家族へは出来るだけ話しかけを行って関係を築き、直接意見や要望等を出してもらえるように心がけている。また、春の外出、敬老会、忘年会の開催時には家族にも参加を呼びかけ、話し合える機会を設けている。家族からの意見を反映し、職員は名札を着用にする改善を行った。</p>
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	<p>自治会に加入しており、地域の広報誌や自治会での行事等の通知を届けてもらっている。地域の清掃活動や体育祭、お祭り等にも積極的に参加をしている他、地域の高齢者サロンにも入居者が交代で参加している。近隣住民が気軽にホームに立ち寄ったり、散歩の際に世間話をしたり、お漬物や野菜等のおすそ分けをもらったりと、地域との相互交流に努めている。</p>

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「地域の中でその人らしく、いきいきと生活して頂くことをお手伝いし、その人らしくをいつまでも」を目標にし、日々取り組むとの理念をつくりあげ、入居者一人ひとりの現状に合わせて何ができるか、何をしたら笑顔が見られるかを大切に考えて支援にあたっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は玄関及びスタッフルームに掲示しており、いつでも確認ができるようにしている。職員全員が入居者と向き合い、共に行動しながら、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入しており、地域の広報誌や自治会での行事等の通知を届けてもらっている。地域の清掃活動や体育祭、お祭り等にも積極的に参加をしている他、地域の高齢者サロンにも入居者が交代で参加している。近隣住民が気軽にホームに立ち寄りたり、散歩の際に世間話をしたり、お漬物や野菜等のおすそ分けをもらったりと、地域との相互交流に努めている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の結果は運営推進会議に報告し説明をしている他、職員ミーティング等でも話し合い、細かい改善に取り組む等、日々の業務に活かしている。今回の自己評価は、全職員が分担して互いの意見を出し合いながら原案を作り、さらに職員同士で話し合いを行い最終的に管理者がまとめた。		

陽だまり

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は入居者、家族、自治会長、民生委員、市職員等の参加により、2ヶ月に1回開催している。会議内容は、ホームの活動状況や外部評価結果等の報告の他、高齢者の食事、認知症についての理解、防災関係、感染症対策等について話し合いが行われている。また、会議は自治会からの情報提供の場にもなっている他、地域の友々サロン、自治会、老人会の方々と地域交流が深まる機会にもなっている。	○	運営推進会議は熱心に取り組まれており、結果をサービスの向上に活かそうという努力が伺われる。参加者の幅を広げ多くの意見を取り入れたいとの姿勢が見られるので、議題等によって必要な参加者の選定を図り、さらにサービスの向上につながるよう期待したい。
6	9	○市町村との連携  事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市職員には運営推進会議に参加してもらっている他、運営に係る必要事項は電話等で相談をしている。市担当部署との連絡は管理者及び法人の担当者が窓口となり対応している。	○	地域における自治会や高齢者サロン、老人会との交流やホームの運営上の様々な課題等を相談するなど、市との相互協力が今後も行えるよう、運営推進会議などの場を利用して、さらに関係が構築されることを期待したい。
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、本人の暮らしぶりや健康状態、入居者の写真等を掲載した便りを入居者毎に作成し家族に送付している他、職員異動等の情報も掲載している。家族の来所時には出納帳確認や個人のアルバムを見てもらい、入居者の近況等の報告を行っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関には意見箱を設置し、苦情相談等の受付方法も掲示しているが、家族へは出来るだけ話しかけを行って関係を築き、直接意見や要望等を出してもらえるように心がけている。また、春の外出、敬老会、忘年会の開催時には家族にも参加を呼びかけ、話し合える機会を設けている。家族からの意見を反映し、職員は名札を着用にする改善を行った。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ホームでは職員の異動は最小限にとどめており、殆どない状況である。やむをえない異動は同法人間での配置換えであり、異動時は既存の職員がカバーしながら入居者への影響が極力出ないように配慮をしている。出産のため退職した元職員が子どもを連れてホームに遊びに来てくれており、入居者の楽しみとなっている。		

陽だまり

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の内部研修は、新人研修や年2回の全体研修や勉強会を行っている。認知症介護に関する実践研修等には計画的に受講をさせている他、希望があれば他の外部研修への受講にも配慮している。今年度はグループホーム全国大会にも参加し、取り組みの事例発表を行った。外部研修等に参加した職員は伝達研修を行い、職員間で知識の共有を図っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県及び全国のグループホーム協会に加入している。開設時に見学に訪れた同業者との出会いをきっかけに、管理者が地域内の管理者との交流を始め、今後は職員間での交流も行う予定であり、徐々に同業者との交流が進展している。	○	開設時から地域の同業者との交流が盛んで、定期的に情報交換等も行われていることから、今後は更にネットワークの構築に努めると共に職員間での交流を促進し、質の向上につながる活動の推進にも期待したい。
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用  本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居に際しては、事前出来る限り本人や家族にホームに来所してもらい、見学や説明に時間をかけて行うことで、ホームの雰囲気に馴染んでもらえるように努めている。また、本人や家族が来所することが困難な場合には、職員が家庭を訪問して説明を行う等、職員との馴染みの関係の構築を行う等、ホームに早く馴染めるように配慮している。	○	事前の体験入居等については、空き部屋の関係からも現状では難しいとのことであるが、本人が安心して入居できるよう一層の工夫がされることを期待したい。
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	炊事、洗濯、掃除、レクリエーション等を入居者と職員が一緒に行う中で喜怒哀楽を共にしている。職員は入居者から昔の歌や料理の味付け、昔の調理道具、行事における食べ物、手芸等を学ぶ事も多く、互いに支えあう関係を築いている。		

陽だまり

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の思いや意向にできるかぎり沿えるよう、寄り添ってケアすることを大切に努めている。意向の把握が困難な場合には職員からの様々な提示により、表情や反応を読み取ったり、日常の行動を観察し本人本位の検討に努めている。入居者の本心をくむことは容易ではないが、職員は日々の生活の中で思いを気付けるように努めている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族、主治医等の要望や意見を踏まえ、来所する親戚や友人等から聞き取った事等も参考にしながら介護計画を作成している。また、本人の言葉は必ず介護計画に記すと共に「ききとりシート」も独自に作成しており、小さな情報も細かく記すことで本人本位の介護計画を目指している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは3ヶ月に1度のモニタリングを行い、カンファレンスをして介護計画の見直しを行っている。本人の状態に変化が見られた時には随時、現状に即した介護計画の見直しを行っている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ホームでは医療連携体制の加算を受けており、同法人の医師の往診が週1回行われている他、別個に看護師が週1回の巡回を行っている。夜間の緊急時も含め、予定外の通院や外出等にも法人内の看護師等の協力が得られる体勢ができており、法人の持つ多機能性を活かして本人や家族の要望に応える支援に努めている。		

陽だまり


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体が医療法人であり、協力医療機関も多い環境となっており、入居者各々のかかりつけ医で受診ができるよう配慮している。かかりつけ医以外で受診する際には、家族に必ず確認を取っており、処方薬や日々の健康情報等を当該医療機関に伝え、適切な医療が受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化に伴い見取りが必要になった場合の方針については、入居時に家族や医師とも話し合いを行い、対応方針の共有を図っている。ホームでは、今までに看取りを行った例はないが、出来る限りホームで入居者の生活を支え続けたいとの思いもある。しかし、常時、医療行為が必要となった際に、介護職員だけでの対応は現実的には困難であるとの思いもある。	○	今後、本人や家族から重度化した場合や終末期の支援についての強い要望が出てくることも考えられることから、協力医療機関等との相談や連携体制の構築、職員間での検討を重ね、重度化や終末期に向けた方針の共有化への取り組みに期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、入居者各々の尊厳を損なわず、親しみがあり、その人に合った言葉掛けを心がけている。居室入口には名札はかけず、部屋の名称を書いた札を掲げている。個人情報はマニュアルに沿った管理を行っており、個人記録などは事務所内に管理保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活ペースを大切にしており、その人の生活や能力に合わせて、本人の希望を聞きながら全体にゆっくりと1日を楽しく過ごしてもらえるよう支援している。ぬり絵、テレビ、外出、買い物等、入居者各々が多様な希望に沿って過ごしている。		

陽だまり

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の希望や旬の食材を取り入れ、毎日献立と一緒に決めている。入居者は職員と一緒に食材の買出しや調理、後片付けも行っており、職員も入居者と一緒と同じ食事を会話を楽しみながら食べている。介助の必要な入居者には職員が付き添い、声かけしながら時間をかけて支援をしている。誕生日には希望により回転寿司等の外食に出かけたり、丑の日のうなぎ等、様々な行事に合わせた食事も提供している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は2～3日に1回は入れるようにしており、順番や時間等は本人の希望や都合に合わせ、一人ひとりが安心してゆっくり入浴できるよう支援している。季節に合わせて、菖蒲湯、ゆず湯、くすり湯等、入浴を楽しめる工夫もしている。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者全員がその日の気分や体調等に合わせ、職員と一緒に調理や掃除等をそれぞれのやり方で行っている。高齢に伴い得意分野や趣味が徐々にできなくなりつつある人にも楽しめることを見つけれられるよう工夫して支援している。カラオケや散歩、食事と組み合わせた外出等も行っており、気晴らしの支援にも努めている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日交代で買い物や散歩に出掛けている。歩行の困難な入居者は、敷地内に敷力所あるベンチに出て過ごすことも出来るようになってきている。敷地内には畑、玄関にはプランターの菜園があり、手入れをしたり観賞するなど各々が楽しんでいる。また、馴染みの美容院に行く人も半数以上いる他、近所へおすそ分けを貰いに外出する事も日常的に行われている。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	各居室に鍵はなく、玄関は日中の施錠は行わず、自由に出入りが出来るようになってきている。しかし、門扉については、入居者が不意に外へ出てしまうこともあることから、安全面を考慮し、家族の了解も得たうえで、現在は施錠しており、必要の都度、職員が開錠している。	○	敷地内は植木や草花がいっぱいベンチやテーブルもありくつろげる環境となっており、入居者も自由に楽しんでいる。門扉については、入居者の安全を考慮しつつ、施錠に代わる手段を今後も検討して行きたいと管理者も考えていることから、地域における生活場という観点から更なる検討を期待したい。

陽だまり

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防訓練は、自主訓練と消防署の立会いの下で各時間帯を想定した訓練を実施している。地域での防災訓練にも参加しており、運営推進会議でも有事の際の地域からの協力を呼びかけている。法人内の自衛組織がある他、地域の連絡網にも入っている。	○	火災や地震の他に道路の冠水や浸水等の水害も予測されることから、ホームとしても訓練に取り入れたい意向があり、今後は風水害を予測した取組みにも期待したい。また、法人内組織だけでなく、緊急時は地域からの協力が得られるよう、今後も呼びかけを期待したい。
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人内の管理栄養士の助言をもらったり、料理本を参考にして入居者の状態に合った栄養バランスの取れた食事を提供するよう工夫をしている。食事前に嚥下運動を行う他、入居者が食べ易い様に切る等の工夫をしている。水分は十分に摂取できるようコップに目安の印をつけており、量はチェック表で記録し確認をしている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間等の共用空間はワンフロアで広いスペースが確保されており、天井も高く取られ開放感がある。内装は木を沢山使用しており、木製テーブルとイス、大きなソファが置かれている他、畳のスペースもあり入居者がゆったりとくつろぐことが可能である。作り付けの棚には季節の展示物や近隣の方の作品が飾られ、過ごしやすい雰囲気になっている。光量は目に優しい明るさが保たれている他、不快な音や臭いがないよう配慮がされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、本人や家族が自由に物を持ち込めるようになっており、テレビ、ローテーブル、備え付けベッド、箆笥等各々のなじみの物が持込まれている。入居者によっては家族の写真や自作の塗り絵、ポスター等が飾られており、自分の部屋という工夫が感じられた。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。